



東予港中央地区複合一貫輸送ターミナル整備事業

フェリー輸送を支える港湾整備
輸送ルートが多様化により物流生産性向上！

現在 now >>> 将来 future

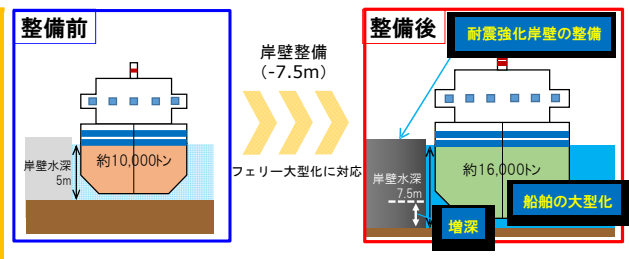
インフラ



平成30年 供用予定

愛媛-大阪を結ぶフェリーが就航している東予港において、フェリーの大型化等に対応した耐震強化岸壁等を整備し、輸送効率化を図るとともに、緊急物資輸送拠点を確保

輸送コスト **13.2億円/年削減**
積載台数 **4割増加** (8tトラック換算)



平成28年4月に東九州自動車道(北九州市~宮崎市)が開通し、陸送及びフェリー輸送を活用した九州-四国-関西を結ぶネットワークが強化され、更なる物流効率化が期待

四国ルート利用のメリット

- フェリー利用により、トラックドライバーの労務管理上のメリットが生じる
- トラック輸送のみの場合より、定時性の確保がしやすくなる

四国ルート利用による車両運転距離の短縮

	運転距離(本州ルート→九州ルート)	
大分-関西	約7割短縮	(750km→200km)
宮崎-関西	約6割短縮	(890km→330km)
鹿児島-関西	約4割短縮	(880km→520km)

※各県庁所在地より吹田ICまで。本州ルートとの比較。

